

パネルディスカッション()
「経営に資する知財リーダーの育成」

知財部門の存在価値と 知財リーダー育成への取り組み

第7回JIPA知財シンポジウム

2008.1.18

旭硝子(株) 上野

理想の知財活動とは

各種意思決定
(IPPFに基づく判断)

意思決定者：
事業部門(お客様)
の責任者

知財業務方向性決定

ビジネス方向性
決定

知財部門から
の提案

R & D方向性
決定

IPPF作成、更新

訴訟遂行

知財業務遂行
(出願・権利化、契約、
他社特許対応等)

ビジネス遂行

意思決定に必要な
情報を収集

R & D遂行

情報の海

- 自社・他社特許
- 自社・他社製品
- 契約情報
- R & Dテーマ情報
- その他の情報
- マーケット情報

マーケット

理想の知財活動に関する考察

理想の知財活動・・・左右のループを回し、スパイラルアップすること

それによって、**マーケット(真のお客様)**に対して
価値あるアウトプットを提供すること

知財部門の役割・・・左のループを回し、スパイラルアップすることと、右のループが回るように事業部門をサポートすること

それらによって**お客様(事業部門)**の知財活動に貢献すること

課題・・・上記について、事業部門の理解と同意を得られるか

知財部門における知財活動リーダー・・・コーディネーションリーダー

ラインリーダーともプロジェクトリーダーとも異なる

知財力、技術力と共に、いわゆるビジネススキルが必要

リーダーの育成に関する仮説

- リーダーを育成することは出来ない
- 選抜して訓練することは出来る
- 訓練・・・35～40歳ぐらいでリーダーをやらせる。失敗も可
他部門、外国を経験させる
- とはいっても、最低限のビジネススキル教育は必要
- ビジネススキル教育内容例

経営全般
セールス
人事組織
課題形成・解決
セルフマネジメント
リーダーシップ・マネジメント
コンプライアンス
コミュニケーション
CS(顧客満足度向上)
マーケティング
財務会計

→ 知財部門を引っ張る
リーダーには全て必要

計画的に行うには
CDPが必要?